

新規・継続等	新規	分野	主要な道路の整備		事業番号	38	事業名	道路改築 (国道・一般改築)			
市町村名	あたりむら 小谷村		ふりがな 箇所名	(国)148号		うちゅう 雨中	事業年度 (完了年度は見込み)	H23年度～		H30年度	
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路築造工 L=1,850m w=6.5(8.0)m (うちトンネル2箇所L=1,030m、橋梁1橋L=80m)					H22年度末事業進捗率	0%			
	H23年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%			
	H23年度実施内容	地質調査 1式、路線測量 1式、詳細設計 1式、橋梁照査設計 1式、用地測量 1式					用地補償費ベース	0%			
	年度	全体事業費	H21年度まで	H22年度	H23年度	H23年度以降残					
	事業費計(千円)	6,800,000	0	0	100,000	6,800,000					
財源内訳	国庫支出金	3,740,000	0	0	55,000	3,740,000					
	その他										
	県債	2,142,000	0	0	31,500	2,142,000					
	一般財源	918,000	0	0	13,500	918,000					
箇所評価	観点	評価項目・指標等	評価			部	政策評価課				
			ランク	評点	ランク	評点					
	必要性 (25)	計画交通量	10,000台/日以上	1,500台以上～10,000台/日未満	1,500台未満	B	2	2			
		代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある			2	2			
		ネットワーク (道路網)	駅やインターチェンジが20km以内にある	駅やインターチェンジが20km以上にある	駅やインターチェンジに通じる路線でない		5	5			
			山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセスに寄与する	山間地域の生活支援、商業、工業地域へのアクセス、市街地の活性化に寄与しない		2	B	2		
		観光地に通じる道路	観光地に通じる道路ではない		2		2				
		各事業特有の必要性(安全の確保)	5.5m未満又は6.0m未満又は6%以上(幅員、半径、勾配)	5.5m以上6.5m未満(幅員)	6.5m以上(幅員)		2	2			
			歩道未整備区間に歩道を設置	歩道はあるが不十分であるものを再整備	歩道整備無し		0	0			
	小計					15	15				
	重要性 (15)	関連計画との整合	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(2個以上)	県計画に位置付けがある又は他の計画に関連(1個)	該当なし	A	6	6			
		設計上の環境配慮	環境配慮がされ現実性が高い	環境配慮がされているが現実性が低い	環境配慮をしていない		4	A	4		
		地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位置付けられている	緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪地域、過疎地域、地震防災対策強化地域に位置付けられている	特別な位置づけはない		5	5			
		小計						15	15		
	効率性 (15)	B/C(費用対効果)	B/C 1.5以上	B/C 1.0～1.5未満	B/C 1.0未満	C	0	0			
		事業効果の早期発現(H22以降残事業年数)	事業年数 5年未満	事業年数 5年～10年未満	事業年数 10年以上		3	C	3		
		コスト縮減	全体的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	部分的に構造物・規格等についてコスト縮減を実施している。	コスト縮減はしていない		4	4			
		小計						7	7		
	緊急性 (25)	安全性の向上	交通事故や落石等の危険箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇所指定はないが安全を向上させる	交通事故や落石等の危険がない	A	9	9			
		各事業特有の緊急性(渋滞対策・環境保全)(医療・福祉・教育)	渋滞箇所が緩和する	渋滞箇所ではないが、朝夕の局部的現象を緩和する	渋滞対策ではない		7	A	7		
			医療・福祉の連携が発揮できる道路(ネック箇所の解消)	医療・福祉の連携が発揮できる道路(円滑化が図れる)	医療・福祉の連携に関係ない道路		9	9			
	小計						25	25			
	計画 (20)	地域からの要望	地域住民の内発的な要望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	A	6	6			
		事業情報の共有	関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない		6	A	6		
		住民参加の状況	住民が計画策定に直接参加	住民や市町村の意見を計画策定に反映	特に住民意見は反映していない		4	4			
小計								16	16		
費用対効果(B/C)		0.4	評価の合計			A	78	A	78		
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(国)148号は松本市と糸魚川市、さらには関東と北陸を結ぶ幹線道路であり、大型車の通行量が多い。その一方で、雨中地区においては駅や役場、郵便局等の施設を結ぶ生活道路でもあるため、地域住民は大型車の通行による騒音、振動や事故の危険性に悩まされている。									
	地域からの要望経緯	夜間の騒音レベルが要請限度70dBを大きく超える75dBが観測されるなど騒音・振動問題が深刻であり、地域住民で「静かで安全な生活道路を取り戻す雨中地区の会」を結成して、早期建設を要望中。									
	事業説明等の経緯	H13年度から度々、意見交換会、説明会等を開催しており、直近ではH22年2月に開催し、ルート案について地元の了解を得ている。また、H20年度に実施された地域高規格道路に係るパブリックコメントなどで広く事業情報を伝えている。									
	環境・景観への配慮項目	築造延長の約6割がトンネルであり、地形改変による環境に対する影響が小さい。 環境配慮制度対象箇所。									
	他事業・プロジェクトとの関連	長野県広域道路網計画に位置付けられる路線とされている。また県中期総合計画における調査箇所とされている。なお地域高規格道路 松本糸魚川連絡道路の調査区間に一体が指定されている。									
特記事項	大型車混入率が非常に高く、人家連担地区における騒音が深刻な問題となっており、静かで安全な生活は地域の悲願である。また狭小な歩道や大型車通行の多さから死亡事故の実績もあり、安全を求める声も非常に大きい。さらに、全県的にも劣悪な環境に対する注目度や期待が高く、早期の対応が必要とされている。										
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他						
部意見	事業の重要性、緊急性及び計画熟度が高いため、平成23年度から新規事業化した。			政策評価課	重要性、緊急性が高い。						